

## ◇ 同好会「歴史を歩く」 新宿歴史博物館&漱石記念館を訪ねて

6月10日(木) 参加者20名

「坊っちゃん」「吾輩は猫である」、それとも「こころ」…?

皆さんはどの作品がお好みでしょうか。

夏目漱石と、漱石を育んだ歴史の街、新宿を探訪してきました。

朝10時、好奇心旺盛な20名(男11 女9)が集合。

気温31℃ 晴れ、真夏日、ちょっと暑すぎ。

ラッキーだったのは、参加者が20名で、「団体扱い」となったこと!

歴史館も漱石記念館も、入館料が半額の150円になりました。



若かりし頃の夏目漱石

### ★…新宿歴史博物館…★



都営新宿線曙橋駅から、津の守坂通りを歩くこと8分で到着。緊急事態宣言で、5月31日まで休館してましたが、6月1日から開館、見学できるようになりました。

地下1階には、旧石器時代から江戸時代までの様々な資料や遺構が、模型で示されています。江戸時代、甲州街道の新しい宿場として賑わいを見せた「内藤新宿」。昭和初期、急速に発展した新宿駅周辺の風俗や娯楽などが、時代背景と共に展示されています。

太平洋戦争下、ガレキと化した街は、昭和22年(1947)四谷、牛込、淀橋が統合され新宿区が誕生しました。戦後の復興を経て、新都心となるまでに発展した新宿は、今も進化中です。

…それにしても、新宿区には、この様に立派な歴史博物館があるんですね。…羨ましいかぎりです。

### ★…懇親ランチ…★

カジュアルなフレンチレストラン「シェ・マシオ」。入口で検温と手の消毒、テーブルの真ん中にアクリル板、コロナ対策、ばっちり。暑い中を歩いて来たので、冷たい水が何ともおいしかったこと!

メニューは、豚肉のローストか、カサゴのポワレのメイン料理、サラダとスープ、デザート付き。一堂に会してのお食事は、ほんとうに久しぶりでした。

お食事もおしゃべりも、皆さん大変楽しく味わい(?)ました。

(…もちろんマスク着用でね!)



★…漱石山房記念館…★

曙橋駅まで戻り、都営新宿線九段下で、東西線に乗り換えて早稲田駅へ。

漱石山房通りを、照りつける太陽の下、歩くこと10分。

さきほど飲んだ水分が吹き出すなか、洒落た、涼しげなガラス張りの建物が出迎えてくれました。

ここは平成29年(2017)、漱石の生誕150年を記念して、晩年の9年間を過ごし、数々の名作を世に送り出した「漱石山房」の跡地に建てられました。

モダンな装いの中、音声ガイドを聴きながら、漱石の足跡を辿りました。

東京帝国大学を卒業後、松山、熊本、ロンドン、本郷千駄木を経て、明治9年(1907)生家に近い早稲田南町に居を移し、大正5年(1916)に亡くなるまで、この地で暮らしました。

毎週木曜日には「木曜会」が開かれ、多くの門人が集まりました。

胃潰瘍に苦しみながらも、「三四郎」「それから」「門」「こころ」「道草」などを執筆し、「明暗」を連載中、49歳で他界されました。

記念館を出たあと、漱石誕生の地を訪れました。

漱石の父が名付けたという「夏目坂」に面した場所に、生誕100年を記念して、碑(弟子の阿倍能成の筆による)が建てられています。

午後3時、早稲田の駅で解散。



コロナの緊急事態宣言下、開催できるかどうか心配しましたが、参加者皆様のご協力のお蔭で、無事に終了することができました。

久々に集まり、このような楽しい時間を過ごすことができ

心より、うれしく思っております。

お暑いなか、本当に、ありがとうございました！！

報告：関根悦子